

「ビジョンとゴール」検討資料(提出があったもの)

【参考資料2】

No.	①街づくりのビジョン(基本目標) : 1層	②街づくりのゴール(到達目標) : 2層
1	<p>①能代はどんなまち?と聞かれた時、市民みんながバスケットについて何かしら知っている、市民スポーツとして力を入れている、親しんでいる街などと答えられる。 【市民スポーツ化、市民バスケットボール化】</p> <p>②外の人から素晴らしい取り組みをやっていると評価され、そのことから市民がバスケットの街づくりに誇れると感じている 【取り組みのレベルアップ、市民が驚くような取り組み】</p>	<p>①老若男女がバスケットに親しむ。 幼児、園児、小学低学年、・・・・・・、高齢者 (高齢者:バスケットを使った健康体操など) 学校のカリキュラム、学校行事にバスケットボールを導入</p> <p>②もっともハイレベルな選抜大会を目指す。【能代カップの国際化】 (バスケットを通じた日韓交流を図る)</p>
2	<p>街の中のいたる所にバスケットをイメージできる物が溢れている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・街なかの商店街にバスケットにちなんだ多くの特産品や商品が、売られたり展示されている(飲食物、書籍、土産物、日用品、スポーツ用品、文具、グッズ等)。 ・特産品開発のための助成制度や研究グループの育成。 ・歩道や商店にシンボルマークやキャラクターが溢れている。 ・バスケットに関する資料館があり、グッズの購入や飲食が楽しめる空間がある。 ・NBAに関する情報や関連資料、貴重な品が見られる場所がある。 ・公園だけでなく、中心市街地の中でもストリートバスケットを楽しめる場所がある。 ・バスケット観戦を皆で楽しめるバーがある。 ・常にバスケットの映像(試合や関連映像)を流す場所がある。 ・バスケット大会、合宿の積極的な誘致と低予算で泊まれる民宿の確保。 ・バスケットサポーター制度の導入(どのチームにも応援団が存在)。 ・歓迎フラッグが町中に飾られている。
3	<p>①バスケットの街づくり事業で「交流人口」が増える。</p>	<p>ア アリナス等へのバスケット合宿が増えて、合宿しているチーム同士や市内のチーム(小、中、高校、一般)との試合が行われる。(コーディネーターが必要)</p> <p>イ 例えば、3オン3のチームが能代市で毎月決まった日に(必ず集まって)試合をすることができる。</p> <p>ウ 能代市に『バスケット博物館』がある。 7月27日(水)~8月2日(火)(畠町新拠点LIBRARY) 7月28日(木)~29日(金)(旧金勇MUSEUM) 能代バスケットボールLIBRARY&MUSEUMを常設する。 「井上雄彦コーナー」をつくる。</p>

No.	①街づくりのビジョン（基本目標）：1層	②街づくりのゴール（到達目標）：2層
4	<p>他の地域にはない「バスケの街」という特徴を活かし、それに伴う観光資源を増やし能代工業高校バスケ部に頼らなくても「バスケの街」と言える環境を整えていき、「宿泊しても十分バスケを堪能できる、又は二日間滞在ではまだ足りない」ようなバスケの街を作り上げる。その中で他のスポーツや文化財、観光資源の見所も作っていく。パワースポットや歴史も検証し名所を増やしていく。</p> <p>将来的ビジョンとしては、他の地域と連携してバスケ以外の観光産業とも連携し、能代市をハブにして広域の観光プランを計画し、必ず能代宿泊体験ツアーを企画し、県外から人を呼び込み、それらをビジネス展開させ若者の仕事の場を創出する。若者たちが帰って来れる街づくりに発展させる。</p>	<p>自分としては街づくりにゴールは無いと思っています。②のテーマから少し外れますが、人々が自分の住む地域の発展という同じ方向を目指して協力し合えばいいのですが、人間の考え方は多種多様、十人十色で中々まとまりません。しかし、誰もが考える事、一番共有し合えることとして、「自分の子どもたち、又は孫たちの将来」だと思います。一度故郷を離れた子どもたちが再び能代に帰ってきた時、住みやすい街か、仕事が見つかる街か、暮らしやすい街か、結婚して子供を育てやすい街か、老後の生活に不自由しない街か、などいろいろ懸案事項はありますが、キーワードは「子ども」で街づくりを進めるのがいいと思われま。行政の進むべき方向性のテーマもそこにあると思います。このテーマを進めても誰も反対しません。</p> <p>とりあえず今、目の前の街づくりとして、外から能代に来た人に「能代でいいところありますか？」と聞かれたときに少なくとも3つから5つくらいは小学生から大人まで能代の自慢を答えられるようになるうではありませんか。その手段として、市民にアンケートを取り、この話題で大いに盛り上げると自然にこの話題が市民の「耳に、目に」入ります。市民を自然に教育出来ます。マスコミを利用して能代の自慢を作り上げていくことが大事です。毎年行って「今年の能代の名所ベスト5」を話題にする事で周知できる。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・能代は「バスケの街」という認識が市民共通となっていること ・小中高で他の地域の通常行われる大会と異なる独自の大会が開催されていること（能代カップ以外にも独自に開催している大会がありましたら申し訳ありません。） ・大仙市で行われている500歳野球のような独自の取り組みが行われていること（ストリートバスケ含め） ・アリーナを利用して、小中高の合宿や交流試合の実施（取り組んでいたら申し訳ありません） ・「バスケの街」と銘打つ以上、各大会で一定の成績を残せるような競技力の向上 ・境港市の水木しげるロードのように、街並みにバスケのにおいを 	<ul style="list-style-type: none"> ・能代山本圏外からバスケに関心のある方々が訪れにぎわいのある街
6	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツの中心としてのバスケ ～ミニ世代から熟年世代～ ・「バスケをする人みる人ささえる人」の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なカテゴリーの大会の招致と市民への大会PR
7	<p>○バスケの街のイメージ作りをするー市民みんながバスケの大好きな能代を目指して、一足元から</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 街を歩いてシンボルとかキャラクターとか目に入る光景 2. シッター街の利用。バスケの街の雰囲気統一してみる。一般公募も可。 3. 公園等のリングの補修及び新設 4. パトカーにバスケ作戦のステッカーを貼って走っています。能代の公用車ももっと多く貼っても 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の人達だけの街づくりではなく、みんなが関われる街づくりを！ ・情報提供及びPRの工夫（遠方の人でも地方の人にも） ・将来の選手育成のために幼児期から楽しめるバスケのルールを考え、楽しませる工夫ー市民の多くが参加出来る大会の開設 ・経済効果が発生するグッズや食の工夫（能代カップなどに来た人達は試合を見ただけで帰っている。売り込みも大切では） ・販売店などに協力マークを ・新庁舎にはバスケの街のシンボルを掲げるーPR

No.	①街づくりのビジョン（基本目標）：1層	②街づくりのゴール（到達目標）：2層
8	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源としてのバスケットがある能代 ・市民がバスケットを知っている能代 	<ul style="list-style-type: none"> ・（イベント型でなく）常設型のバスケット観光施設の設立 <ul style="list-style-type: none"> －バスケットボール博物館，バスケットボールの殿堂 など －バスケットボールの試合が見られる資料館 －バスケットボールが体験できる施設 －街中でバスケットボールを感じられるもの（街灯，マンホールの他にも！） －能代工業高校の栄光のみならず，全国に通じるもの ・（プレーするだけでなく）見る方向からのバスケット教育体制 ・（プレーしなくて良い形でも）バスケットの楽しさを伝える啓蒙活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> －他の競技との共存 －バスケットボールの知識を持った市民を育てる －バスケット観光ガイドの育成
9	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の体育の授業を年間105時間（週3時間，1～6年）とし，週1時間をバスケットの時間に作る。（帯状にとり年間35時間） <ul style="list-style-type: none"> 1,2年はボールに親しみ（基本の運動），ポートボールゲームにする。3～6年はミニバスケットボールゲームにする。 ・小学校教諭を対象に随時，講習会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年大会（1,2年）ポートボールゲームorミニバスケットゲーム 5on5, 3on3のクラス対抗ゲーム ・中学年大会（3,4年）ミニバスケットゲーム 5on5 のクラス対抗ゲーム ・5年6年は現在行われている教育長杯への参加（U6, アンダー6, 6年以下 と U5, アンダー5, 5年以下） ・年1回，1月下旬の土曜日，低・中学年大会 教育長杯 年1回，1月下旬の日曜日，教育長杯（U6, U5）
10	<ul style="list-style-type: none"> ○行政主導・企業・商業等連携して、クラブチームの試合、ストリートバスケット等、楽しく見られる試合を増やし、そしてそれを定期的に継続し、又それを情報発信する。 ○ラグビーの菅平は上物（体育館）がなくてもコートさえあれば多くのチームが一度に合宿でき、そこで練習試合をできるのが利点とされます。バスケットは体育館が必要です。アリナスだけでは、何チームも同時にとはいきません。バスケット専用体育館があるバスケットの街能代。 ○バスケットを愛し、楽しんでいる市民を増やす。 	

No.	①街づくりのビジョン（基本目標）：1層	②街づくりのゴール（到達目標）：2層
11	1 「人づくり」（志の高い） ・指導者（小・中・高の教諭） ・競技運営（競技者に最高の環境を与えることができる） 2 バスケットボール専用体育館（「Yuta-arena」） ・全国大会、東北大会ができる体育館施設（コート×4面or6面、その他施設） 3 利用しやすいアリーナ ・施設管理者が利用しやすい施設の準備を 4 「いつでも・どこでも」バスケットボールができる環境づくり ・たくさんの「アウト・コート」（リング+ハードコート）	1 行政・企業が一体となつての専用体育館づくり ・野球場が「野球」しかできないように「バスケットボール」しかできない体育館 2 「リングがあるだけ」ではなく、プレーができるアウトコートの設置 3 大会誘致 ・公式の全国大会、東北大会、全県大会（小・中・高・大学・クラブなど） ・JBL、WJBL ・招待試合の開催（小・中・高） 4 合宿誘致 ・チームが合宿に来ることができる施設や環境の整備
12	「バスケの街づくり」に対する、能代市民(旧二ツ井町)の意識が薄く、ごく一部の市民だけの街づくりになっているのでは？もっと一般市民との連携が必要。	「バスケの街」の光景は、市内中心は若干見られるが、市外地、旧二ツ井町も含めてバスケの光景が全く見あたらない。 <例>アリナスまでの道路、街灯等にバスケのモニュメントの設置、道路脇にバスケのモニュメントの設置等。 「バスケの街づくり」の本来の目的は、産業振興、観光振興等であると思う。 各種大会の誘致をするのは大変結構であるが、それを生かした商売(付加価値)をもっと出来るようにする。 近年、当能代市の小、中、高校生のあらゆるスポーツは、大変好成績を残し、全国大会等に出場しており、市民に感動と勇気を与えている。 他のスポーツとの兼ね合いも考える必要があるのでは？ <スポーツ王国能代>
13	・小中高などの各年代において、全県大会で上位に進出できる。	・練習場所の確保（総合体育館やアリナス等） 特に土・日→練習試合や招待試合のため
14	○バスケを卒業して大学生達が帰って来た際には、後輩に言う言葉がある。自分達は大学では、能工バスケという「ブランド」を背負っているからはみんなも頑張れよと励まして行ってくれます。 そのブランドを守ってあげるには、市民みんなの「バスケの街」ではないかと思えます。 ○人が集まればいつでも、どこでも、こども大人も楽しめて、シュートが出来る、少ないと思う。新しく出来た河畔公園にバスケの街らしくリングを設けたらどうでしょうか。 ○地域、自治会、各種団体等の協力があってもよいかと思えますが。	ボランティア意識について ○頼まれれば協力 10代～70代、65%ありましたが、ちょっと残念ですネ 能代連合会婦人会は、頼まれますと20～30人位はいつでも応援します。 市民一人でも多くバスケの街ですと言える「能代カップ」だけでなく、小・中・高の市民参加の試合をして、そこで地産地消能代の食などをつなげたらもっと楽しいかと思えます。

No.	①街づくりのビジョン（基本目標）：1層	②街づくりのゴール（到達目標）：2層
15	①400歳野球のような地域参加型バスケット ②能代工業バスケットOBらに協力してもらってメディアたとえばテレビとかラジオで能代カップだったりバスケの街・能代の宣伝をお願いしてみる。 ③bjリーグ・秋田ノーザンハピネッツとの連携	①年に一度地域住民みんなで楽しめるバスケットの大会の開催。応援賞、ユーモア賞など、勝敗以外にも競えてレクリエーション的なバスケット大会。 ②田臥選手、菊地勇樹選手、若月選手など能代工業バスケット部三冠王時代で今も現役でがんばっている人たちをお願いしてメディアでのコマーシャルにお手伝いしていただく。 ③秋田ノーザンハピネッツを各種イベントがあるごと選手を能代に招いてバスケの街能代とハピネッツとの連携を図る。たとえば能代市産業祭、能代カップ会場で選手との交流会を開き相乗効果をはかる。 たとえば<バスケ音頭>など市民が気軽に歌えたり踊れたりして能代カップ等のイベントなどで披露できる振り付け付きの音頭の考案。 B級グルメ。たとえば能代カップで売っていたロングシュートとかの調理パンを活用。ダンク焼きそばももうひと工夫して売り込む。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケの街ミュージアム的な場所がある ・バスケの日がある街 ・「バスケの街能代」を知らない来能者が、能代を離れる時には「バスケに関する物が多い街」と思うこと。 	3on3の出来る場所がもっと欲しい(コートが整備されているもの)
17	野球は甲子園、サッカーは国立、ラグビーは花園、バスケットは能代… なんて言われるようになると良いなと思います。 大きすぎる目標かもしれませんが。	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい頃からバスケットに触れる機会をつくること。 ・小・中学校の選手の育成方法の確立 ・ミニバスケット、中学校、高校を問わず、能代での試合、大会を多く開催。
18	<p>●ミニバスや中学生のジュニア世代が、県大会だけでなく、東北や全国大会に出場し戦えるチームが必要である。そして、この選手たちが地元能代工業へ進んで活躍できるような土台や環境作りをサポートできる体制を整える。 それには、継続的に指導できる指導者が必要であるし、それも負担を軽減するためにも、各校1人だけでなく2人以上配置することが大切。そうすることで、長期的に指導を続けていけるようになると思う。</p> <p>●能代市内は、小学校4年生からの少年団が一般的になっているが、1～3年生からのスタートも当たり前ようになってくれば、4～5年生から試合で活躍できる選手が増えていくと思うし、実際にジュニア層のレベルが高い県南地区は、生徒数の問題もあると思われるが、低学年からスタートしている子供たちを多く見かける。 低学年スタートを各学校で、場所や時間の確保が難しいのであれば、サッカーやバレーのように、能代市内で「能代ジュニア少年団（1～3年生までの期間のみ入部可能）」のようなものを作ってみても良いのではないか。</p>	<p>●街なかに新たに何かを作るとなると、お金がかかることで難しい点があると思う。 例えば、 ・風の松原などにある木を思い切って「バスケットボール」などに造形する。 ・イオンから能代工業高校までに通る道のタイル等に、工業OB（田臥選手、長谷川選手、菊地選手、信平選手など）の手形やサインをつくる。 ※ハリウッドのような形で ※いざ何かを作ったりするとしても、単発的な場所につくるのではなく、例えば中心市街地活性化室を中心につくったりすることで、見に来られた人たちが歩いて次のスポットに移動できるような配慮も必要なのかなと感じます。 ・公園にバスケットリングが設置されているが、場所によっては地面が土や芝のため思うように活用できないところがある。一部でもコンクリートなどで対応できないか。</p> <p>●①でも述べたが、ジュニア層の育成と結果、そして能代工業の活躍が重要だと思います。</p>

No.	①街づくりのビジョン（基本目標）：1層	②街づくりのゴール（到達目標）：2層
19	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に「バスケの街能代」という事を意識できるような何かを作る [マスコットかおき物、絵(マスコットの)] ・公園に小さいリングも用意、又ボールを用意する ボールは全部に柄つけて、どこに持ち出してもすぐわかるように 	<ul style="list-style-type: none"> ☆能代市から全国へ、仮名(ソフトバスケット)なる物を発信する ・ルール等全部を簡単にする ・ボールをやわらかくする ・年代別で小学校～60代までできる物 ・コートの大ささ考える
20	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯スポーツとして全ての人がバスケットボールを楽しめる環境設備 (障害者を含めた全ての人を対象) ①指導者の育成 ②審判の育成 ③ボランティアの確保 ○高いレベルのバスケットボール(大会・合宿等)を行える環境整備 (1)受け入れる環境の整備 ①会場の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・バスケット専用コートのある施設 ・夏場の冷房施設が整った体育館 ・宿泊施設 ②審判の育成 ③ボランティアの確保 (2)「大会に参加したい」「合宿を行いたい」と思える能代になるためには ①強い地元チーム(各中学校、能代工業高等学校、ノーザンハピネッツ等) ②参加したいメリットを感じることでできる工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・大会だけでなく、練習会、ミニゲーム形式など各チームのニーズを考慮し幅広く検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・能代では、高いレベルのバスケットの試合や練習を見ることができる。 ・合宿場所として、全国的に有名。 (高校や大学、実業団・プロのチームが合宿場所として集まる能代)
21	<ul style="list-style-type: none"> ・能代の個性を最大限発揮したバスケの街 ・「木都」でもあるなら完全木製のバスケゴールがあっても良い(アミも木製)→文字通り「ご本尊」を作る→プレスリリース ・聖地にするにはメディアの力が必要→周りがイメージを作ってくれる ☆・バスケをやる人にとって1度は訪れてみたい街 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニバス・全中・高校・アマチュアの全国制覇→バスケ帝国 ・いつでも、どこでもバスケができる(24時間)場所がある。 ・全国規模の3on3の大会 ・街のオブジェをどんどんバスケを連想するものに変えていく。(ex 信号、外灯、木、カンバン…)
22	<ul style="list-style-type: none"> 老若男女、誰もがバスケを愛し親しんでいる街 能代市内のミニ、中学、高校、クラブ、どのチームも上位を占め、全国にも名を馳せている街 障害者バスケ(車いす、知的障害)も、地域住民が理解し、いつでも応援できる体制が整っている街 	<ul style="list-style-type: none"> 広報などを通じて、毎回バスケの話題が豊富であること 指導者同士の、チーム強化の情報交換が盛んであること 定期的に車いすバスケチームとの交流が行われている

No.	①街づくりのビジョン（基本目標）：1層	②街づくりのゴール（到達目標）：2層
23	街に降り立ったときに、「バスケの街」が目に見える、感じられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・全市民が、好きな(応援している)バスケットボール選手がいる。フルネームを言える。 例：田臥勇太、石井秀生 または、好きな(応援している)バスケットボールチームがある。 例：秋田ノーザンハピネッツ、能代工業高校バスケ部、能代南中バスケ部、… ※名前を知ること、より愛着がわく。 そのためにも市民が普段からバスケの情報に多く触れていることが必要。
24	<ol style="list-style-type: none"> 1. 能代市民がバスケに関心を持って、日常会話にバスケの話題が登場するくらいになれば「バスケの街のしろ」といえると思います。 2. ストリートバスケを盛んに開催出来る環境作りを進め、土、日にはどこかで試合をしているような光景 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分でバスケをしなければ分からないので、「健康バスケ大会」等に参加してもらい、バスケを理解し関心を持ってもらうことが必要。 2. バスケ部員でない、子供から大人までのチーム編成で、ストリートバスケの試合を考える。
25	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民がバスケに関わりをもっている。（プレイする、手伝う（ボランティア）、観戦する等） ・全ての年代（ミニ、中学、高校、一般）でバスケの強豪チームがある。 ・バスケに関する様々な情報が得られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回以上は、市内で必ずバスケの大会が開催されている。 ・指導者研修、審判講習、バスケクリニックなどが継続して開催されている。 ・バスケ情報の発信基地がある。（施設を含む） ・毎年、ハイレベルの試合が観戦できる。
26	<ol style="list-style-type: none"> 1) <ul style="list-style-type: none"> ●小・中・高の全国大会が、入れ替わり毎年開催されているーバスケの街 能代。 ●bjリーグのゲームが毎年開催されている 2) <ul style="list-style-type: none"> ●大学、実業団、プロチームの合宿が行われている。 ●バスケットクリニック（キャンプ）が毎年開催されている。 EX. Noshiro Summer Camp：地元のみならず、全国、海外へも募集の巾を広げる（※全国、海外のジュニアが個人として参加応募できる） 3) <ul style="list-style-type: none"> ●指導者（育成）講習会が定期的に開催されている。 	<p>上記1)と2)の到達目標として</p> <ul style="list-style-type: none"> ■大会開催の際は市民ボランティアの協力が万全である。 （H14年度調査では、79.5%という高いボランティア協力意識を持っているが現在はどうか？ 市民意識を高めるためにも高いレベルの大会を開催継続する） ■公園や街角にリングが設置され、日常の中でバスケを楽しむ光景がある。 （米ニューヨーク市の様に、ストリートバスケのシーンが能代市観光絵はがきに採用） ■大会、合宿、イベント等の“バスケの街 能代”のキャラクターが統一され街中にあふれている。（ポスターやグッズが商店街を飾る） <p>3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■指導者育成講習会の受講者が、クリニック・バスケスクールや学校訪問での指導実施。（県内外の大学と連携し、大学院レベルの指導研究としても実績を重ねる）

No.	①街づくりのビジョン（基本目標）：1層	②街づくりのゴール（到達目標）：2層
27	<p>能代工業だけでなく、ニツ井町を含む能代市内の小学校、中学校のバスケ部が常勝チームと言われるようになる。</p> <p>↓</p> <p>能代カップの様な大会を年中開催。あわせて一般成年の試合も全県規模で。</p> <p>↓</p> <p>大会に来てくれた能代市外からの外貨獲得。</p> <p>↓</p> <p>商売がうまくいけば雇用がうまく増えて人口増加？税収もUP？</p>	<p>小学生等を対象にしているバスケクリニックをもっとコンスタントにやってスキルの底上げを狙う。もちろん中学生も同じ。</p> <p>前能代工業監督、加藤三彦氏を外部コーチ的な感じで、能代のバスケにかかわっていただけたらどうか？</p>
28	<p>「バスケを体感できる街」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスケをしたことがある ・バスケを見たことがある ・ボールにさわったことがある <p>「試合をするなら能代へ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強いチーム作りには、小・中学生のレベルアップが急務 ・練習試合等の交流を増やすことにより、自分たちのレベルの認識と新たな目標設定ができる。 	<p>「月に1度のフリースロー大会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館にこだわらず、オープンな場所でたくさんの人に見てもらう。 ・年に1度とかではなく、恒例的に開催することで、市内外からも注目を集めていく。 ・その為には、既存のリングの修復と管理が優先される。 <p>「試合申込の((窓口))」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校のスケジュールを把握した中で、相手校を選択・交渉・会場設定。 ・情報を流すことにより、見学も可能としていく。（見ることもイメージトレーニングとして必要ではないか？）
29	<p>1 地域経済が潤う事業が必要と考えます。 その為には滞在型大会の開催の強化</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットウィーク 5月の一週間 ○能代カップ 女子 ○能代カップ 社会人男女 ○能代カップ ミニ ○ノーザンハピネッツ ※中学校の三種町も巻き込む必要あり。 <p>能代カップ期間を特化して、あらゆる年代種目バスケットが能代で行われる、祭りにしたらいかがでしょうか。</p>	<p>1 チームの準ホームタウン構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人の秋田銀行女子のニツ井ホームタウン <p>国体以降の盛り上がりがなく、地域に愛されるチームを持つ事が地域活性化になることは、様々なスポーツからもみとれます。 この機会に、サポーター制度も活用して取り組むべきと考えます。</p>
30	<ul style="list-style-type: none"> ・どこにいてもバスケが感じられる街 ・バスケットボールがあちこちにある街 ・市民が日常の会話でバスケの話をしている街 ・衣・食・住にバスケットボールが関わる街 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して毎月バスケットボールイベントを行う ・ゴミ箱・傘立て・街灯・信号がバスケットゴール ・全てのイベントでバスケが出来る